

レポート

城西大学社会経済システム学科

4年 加藤利生

目次

日程

- 第1章ウィーン（オーストリア）
- 第2章ブルノ（チェコ）
- 第3章ブラティスラヴァ（スロヴァキア）
- 第4章ブダペスト（ハンガリー）
- 最後に

日程

フライト

成田発 2019年4月23日 21時20分→ドバイ着 4月24日

ドバイ発 4月24日 8時55分→ウィーン着 4月24日 12時55分

チェックイン後ウィーンの宮殿周辺を散歩、夜はレストランで食事

25日チェックアウト後分離派作品の鑑賞、マイクロバスでブルノへ

ホテル Slavia チェックイン、17時半からマサリクの日本語学科の学生と食事

26日テューゲンハット見学、ジデク先生による冷戦期チェコスロヴァキア経済史の授業と市内観光

27日バスでタトラ博物館へ、民俗村を散策

28日電車で2時間半かけてプラハへ、プラハ城近辺観光

29日マサリク大学の日本語の授業1・2限目に参加、市内観光

30日バスでスロヴァキア・ブラティスラヴァへ移動、ホテル Skalitz にチェックイン、コメニウス大学の学生らと食事

5月1日オーストリア・ハンガリー・スロヴァキア三ヶ国国境散歩、市内観光、ホテル付近のレストランで日本人同士の交流

2日バスでハンガリー・ブダペストへ、ホテル Star light にチェックイン、ELTE 大学の学生たちと食事

3日ホルバート先生による一時間程度のハンガリー・ユダヤ史講義、国際交流基金日本文化センターで概要を聞く

4日プレプク先生によるハンガリー・ユダヤ史講義、シナゴーク見学
ELTE 大学の学食で食事後日本語の授業に参加

5日ブダ見学

6日シュディ元駐日ハンガリー大使による日本・ハンガリー経済史の講義、午後はセンテンドレ観光

7日朝にペスト散歩、12時にバスでブダペスト空港へ

フライト

5月7日ブダペスト発15時30分→5月7日ドバイ着22時

ドバイ発5月8日2時40分発→成田着17時

解散

第一章ウィーン（オーストリア）

ウィーン到着後すぐにホテルのチェックインを済ませ、準備をしたのちウィーン市内の散策に出かけました。鉄道チケットを買うのに苦戦しつつもシュテファンプラッツ（駅）まで行き、市内中心に出ました。宮殿周辺を見学し全員でレストランで食事をしました。

ウィーン二日目はホテルのチェックアウトを済ませ、荷物を預けた後再び市内観光をしました。昨日同様シュテファンプラッツへ行く予定が逆方向の電車に乗ってしまいました。しかしおかげで小さくのどかな町との出会いもあり付近を散策後シュテファンプラッツへと向かいました。

地元の学生らに道を聞きながら、目的地のクリムト展に着きました。先生方の解説付きで任意参加の分離派と呼ばれるグスタフ・クリムトの作品を見学しました。見学後は馬車の市内ツアーに参加。ツアーコースは20分、40分、1時間の三種類あり、私たちは20分のコースを選びました。カフェでザッハトルテを食べ、王宮内の図書館や庭園を散策しました。電車でホテルに帰り、マイクロバスで次の都市チェコのブルノへ移動しました。

※写真はウィーン市内のツアー用馬車と宮殿、クリムトの壁画です。馬は非常に利口で大人しいですが駅の近くはやはり臭いです。乗り心地も良いとは言えません。壁画は部屋に展示してあります。入場料がかかります。



第二章ブルノ（チェコ）

マイクロバスでホテルに到着後マサリク大学の学生らと自己紹介を済ませ、学生のみで交流を兼ねた食事へ。ブルノ二日目は第二次世界大戦前に建てられた家でありながら近代

的な構造を特徴とするテューゲンハットを見学しました。昼食をブルノ市内で済ませたのち、マサリク大学でジデク先生による戦後チェコ史の講義を受けました。講義の後はジデク先生のご厚意で街を案内してもらえらることになり、任意ではありましたが参加しました。ブルノ市内の教会やお城を案内してもらい、ブルノに伝わるワニにまつわる伝説や市庁舎の柱がねじれている理由などを教えてもらいました。

ブルノ3日目はマサリク大学の学生数名とジデク先生と共にバスでタトラ博物館へ行きました。タトラ博物館とはチェコの自動車メーカータトラの歴史を見ることができ、自動車が展示してあります。各自昼食を取り午後はバスで民俗村へ移動、見学しました。

※写真はタトラ博物館の展示品です。馬車から始まり、レーシングカーや軍用車の製造も行ってたようです。



民俗村ではチェコの名家が再現されており、当時の生活が見て取れます。園内に数か所売店があり、地元のお菓子や酒を買うこともできます。

※写真は民俗村です。塔の中には右の写真の甲冑や骸骨が展示してありました。



希望制でプラハへ行くことになり、研修生の大多数が電車でプラハへ行きました。ブルノからプラハまではおおよそ2時間半かかりました。駅到着後は国立博物館正面の大通りを通り、時計台のある広場へ出ました。ちょうど13時になる時間だったので時計台の仕掛けを楽しみ、プラハ城へ向かいました。

※写真はプラハの国立博物館と時計台です。大通りには屋台も出店しており、ソーセージや鶏の串焼きなどが買えました。時計台のある広場は仕掛けを見ようと集まった観光客で溢れかえっていました。



カレル橋を渡り、市街地を進むとプラハ城があります。入るときには手荷物の検査がありますが問題なく全員入れました。お城の内部に入ることもできますが、その場合は入場料がかかります。

※写真はプラハ城です。園内にも時々衛兵が巡回しています。



第三章ブラティスラヴァ（スロヴァキア）

夕方にホテル Skalitz へ到着しコメニウス大学の学生や先生らと夕食を取りました。食後にアイスクリームをご馳走になった後、数人で市内を散策しました。

翌日はコメニウス大学の学生らと共にバスでスロヴァキア南部の国境線へ行きました。この国境はオーストリア・ハンガリーの三カ国が接する地でもあり、公園には複数のモニュメントがありました。周囲はトウモロコシ畑が広がっており、バス停からは 20 か 30 分ほど歩きました。

バスでホテル付近まで戻り、ドナウ川にある船内のレストランで遅めの昼食を取りました。その後はお土産探しもかねて市内の観光をし、ホテル横のレストランで夕食を取りました。このレストランは市内の日本人行きつけのお店ということで日本大使館の職員や寿司屋、ラーメン屋の店員、留学生と十数人が集まりそれぞれスロヴァキアについてのお話を聞かせてもらいました。

三日目の午前には市内の観光とお土産を買い、昨日に知り合った日本人の方々が経営しているラーメン屋で昼食を取りました。昼過ぎにはマイクロバスでハンガリーのブダペストへ向けて出発しました。

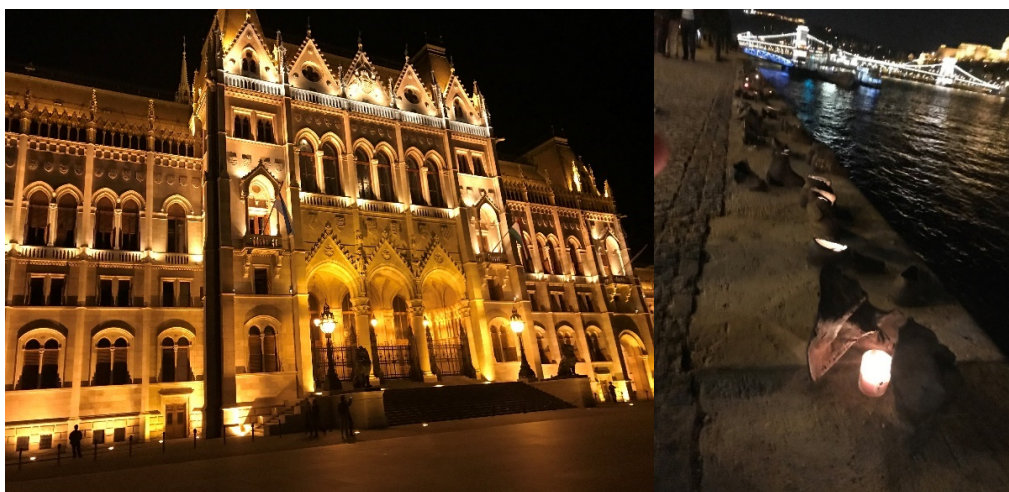


※写真は国境のモニュメントです。Mがマジャール、すなわちハンガリーを指し、Öがオーストリアを指しています。写真の奥がスロヴァキアです。

第四章ブダペスト（ハンガリー）

17時過ぎ、マイクロバスの運転手らが彷徨いながらブダペストのペストと呼ばれるドナウ川東岸のホテル Star light へ到着しました。ホテルのロビーに集まってくれた ELTE 大学の学生らと挨拶を済ませレストランで食事をとりました。

※写真はブダペスト市内の夜景です。国会議事堂はライトアップされていました。初日以降は雨が続いたため写真は少ないです。ドナウ川の周りに靴のモニュメントが並べてありました。第二次大戦時に迫害されたユダヤ人への追悼のためであり、ろうそくに火が灯されています。



二

日目は朝にホルバート先生によるハンガリーのユダヤ史の授業を一時間ほど受けました。授業の後は幼いころにホルバート先生が暮らした家や小学校を巡り 1950 年代のハンガリーについてや、亡命時の様子について教えてもらいました。自身の研究とも関係してくる内容だったので非常に興味深いお話でした。その後はブダペスト市内にある国際交流基金日本

文化センターでこれまでの活動についてや、日本に興味を持ちセンターを利用している人々について教わりました。日本の文化を正しく発信している数少ない機関でもあり、ハンガリー国外からも訪れる人がいるそうです。午後は ELTE 大学の食堂で食事をとり、日本語の授業に参加しました。実際に彼らと会話をしたり、発音の練習に協力しました。

三日目はプレプク先生によるユダヤ史の講義を午前を受けました。昨日のホルバート先生の講義に比べ、より大きな範囲でのハンガリーとユダヤ人の関係について教わりました。また、市内のシナゴグを見学し、教会の内部を隈なく散策できました。

四日目は全体での予定は一切なく、終日自由時間になりました。そのためこの日はこれまで行っていなかったブダを観光しました。ホテル近くの橋を渡りまずはブダ城を見学しました。お城の上部へはエレベーターで行き来できますが迂回して城内を上ることもできました。ブダ白の周りには市街地が広がり北には境涯がありました。やはりこの日も残念なことに雨だったためゆっくりと観光をすることはできませんでしたが、時間に余裕があったおかげでブダ城近辺は隈なく探索できました。

五日目は元駐日ハンガリー大使であったシュディール氏によるハンガリーと日本の経済関係についての講義を受けました。日本とハンガリーの経済の繋がりは意外にも社会主義時代から深く、スズキの中欧進出が大きな意味を持っていたことを改めて知ることになりました。午後はセルビア人によって建てられた町センテンドレに行き、チョコレート屋さんの見学ができました。展示品を見る場合は入場料がかかりますがチョコレートで作られた作品を見ることができます。最後に町のレストランで研修最後の夕食を取りました。
※写真はセンテンドレのレストランの様子です。様々な楽器や鎧などが飾っており、不思議な雰囲気のお店でした。料理も大変美味しかったです。カエルの揚げ物には抵抗がありました。



六日目はハンガリーでの最終日でもあり、朝に市内を散策し昼にはマイクロバスでブダペスト空港へ向かいました。ハンガリーへ来て以来初めて晴れましたが残念ながら長居はできなかったためあまり写真は撮れませんでした。行き同様帰りもドバイを経由して日本時間の5月8日17時に成田に到着し、中欧研修は終了。その場で解散しました。

最後に

研修中の国をまたぐ移動は基本的に陸路で行いました。国境を越えれば言語や通貨、民族、法が違う。しかしそこに柵は無い。島国である日本ではできない経験を何度もしました。本研修の目的であったEU内での国境とはなにかを感じ取れたと思います。いつの間にか越境しあらゆるものが変化する不思議な体験でした。地元の学生らとの交流も非常に刺激的でした。彼らの日本に対する関心の高さや日本語の能力の高さは目を見張るものでした。会話の中でも彼らが急速に日本語を身に付けているのが分かりました。それだけ日本には彼らを引き付ける魅力があることの証明でもあり、文化の発信が非常にこれに貢献していることも分かりました。本研修が続くのであればより多くの人に参加してもらい、刺激を感じ、中欧への認識を改めてほしいと思いました。本研修では非常に多くのことを学ばせてもらいました。